

(一財)語学教育研究所 2026 年度講習会 講師プロフィール (五十音順)

相田 眞喜子 (あいだ まきこ) 田園調布雙葉小学校非常勤講師・東京学芸大学特任講師

小学校で、子どもたちが試行錯誤しつつ言語を獲得していくたくましい姿に感動をもらいながら、日々、汗をかきかき授業をしています。教員を目指す大学生に指導法の実践的な講義をする機会もいただき、刺激をもらっています。語研で共に研究し切磋琢磨し合う仲間がいることはとても心強いことです。子どもたちの学び方に寄り添って、中学校以降の外国語学習の土台となる力をつける授業づくりを、と一緒に考える機会を頂けたら幸いです。

浅野 伸子 (あさの のぶこ) 東京都立駒場高等学校非常勤教員

初任校ではどうやっても授業が成り立たず、勉強不足を痛感して語研に入りました。以来 40 年近く、パーマー研究グループを中心に学びを重ね、生徒が少しでも多く英語の音声に触れて自ら表現できるような授業スタイルを探ってきました。教師としてのキャリアの後半は、進学校で常に進度に追われる「論理・表現」の授業について、生徒が自発的に考えて取り組める形を試行錯誤してきました。「コミュニケーション英語」とはまた違った道筋で生徒の表現力を引き出すのが現在の目標です。

石田 裕子 (いしだ ひろこ) 品川区小学校英語専科指導員

公立小学校で 3-6 年生の英語の授業を担当しています。授業の中で見せる子どもたちの様々な反応や学ぶ力に、はっとさせられ、また指導者としての新たな課題に気づかされ奮闘する日々です。その傍ら第 10 研究グループの先生方と一緒に研究することで、たくさんの学びや刺激を頂けるのは何よりありがたいことです。小学生ならではの子どもの学び方、学ぶ力を大切に、中学校以降にも繋がる力をつける授業とは、皆様とも一緒に考えることができましたら幸いです。

江原 一浩 (えはら かずひろ) 高崎経済大学非常勤講師

県立、国立、私立の高校と、国立、公立、私立の大学で、アジア圏からの留学生を含む様々な英語レベルの学習者たちを指導してきました。指導者と学習者の複眼的視点を持ち、英語指導と英語学習の改善と向上に取り組んでいます。若林俊輔先生の言葉「教わったように教えるな」と、ジョン・ファンズロー博士の提言「small changes」を指導の柱として、学習者の知識やスキルの自己更新を促す触媒になるよう努めています。現在、高崎経済大学の非常勤講師と検定高校教科書 English Communication 『Power On』 (東京書籍) の編集委員を務めています。

及川 賢 (おいかわ けん) 埼玉大学教授

語研理事。東京外国語大学卒、東京学芸大学大学院修了、Reading 大学大学院修了。武蔵高等学校中学校教諭、東京学芸大学助手、山梨医科大学助教授を経て、2002 年より埼玉大学。専門は英語教育学。教科教育法やゼミを通して、小学校教諭、中学校及び高等学校等の英語教諭の育成に力を注いでいる。検定教科書 TOTAL English Course 編集委員、『英語教育』(大修館書店)での新刊紹介(2002 年 10 月号より)、学習指導要領実施状況調査分析委員(文部科学省)、2021 年小学校英語教育学会全国大会実行委員長、2024 年全国英語教育研究団体連合会(全英連)埼玉大会公開授業(小学校)指導者。埼玉県を中心に指導者や講師多数。

粕谷 恭子 (かすや きょうこ) 東京学芸大学

ひょんなことから小学校英語の世界に飛び込み、現在に至ります。今も大学で教員養成に携わる傍ら、週に一日、私立小学校で英語の非常勤講師として勤めています。子どもが学びやすい授業と大人が思い込んでいる授業の乖離には驚くばかりで、子どもが大事にされ、言葉が大事にされる授業を目指しつつ、先生方が考えるきっかけとなる研修が行えるよう、精進する毎日です。

川副 理美（かわそえ さとみ） 田園調布雙葉小学校英語専科

大学院生の時に海崎百合子先生と出会い、小学校で英語を担当する機会に恵まれました。海崎先生のお授業を見学・録音させていただき少しでも真似してみようとするところから始めて、そこから日々、目の前の子どもたちや同僚や第 10 研究グループの先生方からたくさんのお話を教えていただいています。聞こえた音をそのまま発音する姿から小学生ならではの学び方があることを知り、子どもたちが持っているすばらしい力に頼りながら私自身も試行錯誤しています。

木村 祐太（きむら ゆうた） 石川県金沢市立西南部中学校教諭

石川県内の公立学校に勤務して 17 年。これまでに中学 1 年から 3 年までの持ち上がりを 4 回経験し、継続的な学習指導と発達段階を踏まえた授業実践を重ねてきた。石川県小中学校英語教育研究会幹事長。2021 年度若林俊輔奨励賞受賞。教科書編集委員として言語活動の設計および指導書執筆にも携わり、授業と評価の改善に取り組んでいる。

草間 浩一（くさま こういち） 武蔵高等学校中学校教諭

武蔵高等学校中学校の教諭として 40 年弱英語教育に携わっています。途中、英国ニューカッスル大学に留学、生徒の学習スタイルに応じた CALL (Computer Assisted Language Learning) をテーマに研究し、PhD を取得しました。その後も個々の生徒の違いに応じた支援をテーマに学びながら、特別支援教育士としての知見も生かせるように、実践につなげています。2018 年度からは早稲田大学の非常勤講師として私学における特別支援教育の集中講座も担当しています。

久保野 雅史（くぼの まさし） 神奈川大学教授

1960 年、横浜市生まれ。神奈川県立外語短期大学付属高等学校に 4 年、筑波大学附属駒場中・高等学校に 21 年勤務し 2008 年度より神奈川大学に勤務。2026 年度より図書館長。専門は、学習英文法、英語教育史(特に戦後日本)。英語授業研究会会長、日本英語教育史学会副会長、英語教育協議会 (ELEC) 評議員。高校時代の仲間たちとバンドを組み、ライブハウスでキーボードを演奏。共編著：『Q&A 高校英語指導法事典』、『英語授業ハンドブック (高校編)』。共著：『決定版！授業で使える英語の歌 20』、『英会話・ぜったい音読 (入門編)』。分担執筆：『教科書だけで大学入試は突破できる』、『すぐれた英語授業実践』、『学習英文法を見直したい』、『英語で教える英文法』など。

向後 秀明（こうご ひであき） 敬愛大学国際学部教授・明治大学文学部（教職課程）兼任講師

千葉県の公立高校 3 校で 22 年間勤務した後、千葉県教育庁に指導主事として 2 年間、文部科学省に教科調査官として 7 年間勤務しました。大学に移って早 10 年目を迎えますが、1 年の 3 分の 1 がホテル暮らしという状態は相変わらずです。大学では英語の諸科目に加え、中・高等学校の英語教員志望者（たぶん）対象の科目を担当しており、「授業と学生とのコミュニケーションがほぼ趣味」という生活を送っています。最低限、学生が「英語は好きじゃないけど、嫌いにはならなかった」と思って卒業してもらえるようにしたいと考えて日々の授業を行っています。実際には思い通りにいかないことも多く、他の先生方の実践から学びながら試行錯誤の連続です。

小菅 敦子（こすげ あつこ） 元東京学芸大学世田谷中学校教諭

元東京学芸大学附属世田谷中学校教諭。この間に多数回にわたり授業を公開。NHK ラジオ『新基礎英語 1』（1994、1995 年度）講師を勤める。中学校を退職後、武蔵野大学他にて教職の授業、英語指導に従事。1997 年「パーマー賞」受賞。語学教育研究所顧問。パーマー賞選考委員。授業研究グループ（# 5）顧問。

小菅 和也（こすげ かずや） 武蔵野大学名誉教授

千葉県立高校、東京都立高校、国立大学附属高校など、20 年余り高校の現場を経験してきました。その後、大学に籍を置いて 20 年弱、中高英語教員養成に携わり、2021 年 3 月に武蔵野大学教育学部を退職しました。多くの自治体等の現職教員研修に長年関わってきました。音声中心の英語授業の進め方、英語発音とその指導に、特に関心を持って実践と研究を進めてきました。語研には 20 代後半から、もう 40 年以上お世話になっています。英語教師としての自分は、語研に育ててもらったと思っています。

静 哲人（しずか てつひと）大東文化大学名誉教授

東京外国語大学卒業。コロンビア大学ティーチャーズカレッジより修士号（MA in TESOL）。レディング大学より博士号（PhD）。大妻中学高校、大妻多摩高校、福島工業高等専門学校、関西大学、埼玉大学を経て、大東文化大学で英語教員養成担当。専門は英語授業実践学、特に発音指導法。個別発音指導の方法である「グルグルメソッド」開発者。著書に『音読の教科書』『リスニングの教科書』『単語の教科書』『発音の教科書』（テイエス企画）『英語授業の心・技・体』『英語授業の心・技・愛』（研究社）『音声指導入門 音ティーチングハンドブック』『発音入門 音トレーニングドリル』（アルク）など。

杉内 光成（すぎうち みつなり）早稲田大学本庄高等学院教諭

専修大学文学部英語英米文学科卒業、早稲田大学大学院教育学研究科英語教育専攻修了。大学院在籍時に埼玉県私立高校で非常勤講師を2年間、その後中高一貫校で専任教員を11年間務め、昨年度から早稲田大学本庄高等学院で教諭として勤務。生徒とインタラクションをしながら知的好奇心をくすぐり、生徒が英語を楽しんで習得していく授業を目指している。中学校検定教科書 Here We Go！（光村図書）編集委員。中学校英語教育研究（#29）主任。

鈴木 文也（すずき ぶんや）高崎健康福祉大学准教授

東京外国語大学外国語学部欧米第一課程英語専攻卒業。ランカスター大学言語学・英語学研究科修士課程修了、同大学博士課程修了。応用言語学博士。ケンブリッジ英語教授法資格 CELTA 取得。語学教育研究所研究員、同学生研修室長。専門は言語社会化、社会文化理論における学習者の主体性、教職アイデンティティ等。語学教育研究所、AAAL、AILA、BAAL、JALT、TESOL International Association、などで研究内容を発表。17年間、私立の中学・高等学校で教えた後、大学に移って4年目。高崎健康福祉大学人間発達学部准教授、筑波大学附属駒場中・高等学校非常勤講師、東京外国語大学非常勤講師。

砂谷 恒夫（すなだに つねお）東洋学園大学非常勤講師

公立高校教諭、私立高校講師を経て現職。語研研究員・評議員・総務部員。「単語の意味の指導」「ALTとのTeam Teaching」「中高4校、授業で実践！」等を語研大会にてグループ発表。「日本語訳を使わないで英単語の意味を教えるにはどうすればよいですか。」（『英語指導技術ガイドQ&A 授業の悩みにこたえる26のレシピ』8章）執筆。『ウィズダム英和辞典』『ヴィスタ英和辞典』項目執筆。高校検定教科書共同執筆。

栖原 昂（すはら たかし）筑波大学附属中学校教諭

東京都の公立中学校で5年間勤務したのち、現在の勤務校に移って11年目になります。教師と仲間がいるからこそできる学びを大切にしたい授業を心がけてきました。教科書を軸にしながら、生徒が実生活や世の中で起きていることに「英語」という窓を通して考え、思いを馳せられればと日々思っています。今年度は中学2、3年生を担当しています。教科書を上手に活用しながら自分の意見を英語でしっかりと言えるための適切なステップや、英語教育におけるAIの効果的な使い方について研究中です。

曾根 典夫（そね のりお）筑波大学附属高等学校教諭

茨城県立高校および中等教育学校を経て、現在は筑波大学附属高校に勤務しております。約15年前に語研と出会い、教科書を軸としながら、生徒が自らの考えを表現できるようにする指導の在り方について探究を続けています。また、生徒が「今日、学校に来てよかった」と実感できる授業の実現を常に念頭に置いております。語研をはじめ、諸先生方のご指導・ご支援のもと、現在に至っています。これまでに筑波大学において教職課程（実践講座）を担当いたしました。

高杉 達也（たかすぎ たつや）筑波大学附属中学校教諭

埼玉県生まれ。大学卒業後、東京都立中野工業高等学校、千代田区立九段中等教育学校、東京都立小石川中等教育学校を経て現職。東京都に奉職時は、教育研究員、東京教師道場リーダー、教育委員会主催研修の講師などを歴任。東京都中学校英語教育研究会研究部副部長、ELEC 同友会英語教育学会副会長、同評価研究部会副部長。文部科学省英語教育推進リーダー（LEEP）。2025年には、2024年に刊行した単著『思考力・判断力・表現力を育てる 中学校・高等学校「タスク×言語活動」英語授業デザイン』で、語学教育研究所より外国語教育研究賞を受賞。

千田 享（ちだ とおる）埼玉県立浦和西高等学校教諭

農業高校、工業高校、外国語科設置校、そして制服の無い普通高校で教えてきました。2016年から英語教育推進リーダーとして埼玉県で2年間講師を、2017年からは県の年次研修の講師を務めています。教員3年目から語研にお世話になり、研究大会では11回ほど発表の機会を得ました。また第60回全国英語教育研究大会で発表できたのも語研で学んで来たおかげだと思っています。検定教科書や検定外テキストの執筆では、オーセンティックな英語でリアルな情報を提供するように努めています。趣味はピアノ、スクーバダイビングなど。

津久井 貴之（つくい たかゆき）群馬大学

国公私立中高、中等教育学校、教育委員会など、様々な現場で英語教育に関わってきました。現在は、英語教師の役割の変化、Teacher Talk、翻訳・添削ツールや生成AIを活用した授業づくりについて大学で研究しています。また、現場の授業実践に継続的に関わる中で、先生方が理論と実践を往還しながら学び続ける営み（praxis）をいかに実現し、教師としての成長を促していけるのかという、教師教育者の在り方にも強い関心を持っています。AI活用の時代にあっても、教材と生徒の実態を踏まえて授業をつくり、生徒の思考や気づき、対話を引き出すという英語教師の役割の核は変わらないと考えています。2011年度パーマー賞受賞。

手島 良（てしま まこと）武蔵高等学校中学校教諭

武蔵高等学校中学校の教員です。関心はフォニックス、文字指導、発音指導、そして文法シラバス。いくつかの大学で「教科教育法」「教育実習」なども担当（非常勤）してきました。著書に『これからの英語の文字指導—書きやすく読みやすく』（研究社）、『英語の発音・ルールブック』（NHK出版）、『通じる英語の発音ドリル』（研究社）、共著に『Sunshine』（中学校検定教科書、開隆堂）、『英語授業の「型」づくり』（大修館書店）などがあります。

永井 淳子（ながい じゅんこ）田園調布雙葉小学校非常勤講師他

東京都市大学附属小学校（旧東横学園小学校）で英語科講師として33年間勤務し一旦退職をしましたが、本年度週一度だけ4年生と6年生を教えています。その他、田園調布雙葉小学校で5年生の授業を担当、青山学院大学・東京学芸大学の非常勤講師として教職課程（小学校英語）の講座を担当しています。子どもたちや学生と過ごす時間の中で、日々多くの刺激を受け、学びを得ることができ、感謝しています。子どもたちに小学校でどのような経験を積ませ、中学校に送り出していくべきか、御一緒に考えていきたいと思えます。

根岸 雅史（ねぎし まさし）東京外国語大学世界言語社会教育センター特任教授

東京外国語大学外国語学部英米語学科卒業。東京学芸大学大学院修士課程教育学研究科英語教育専攻修了。英国レディング大学大学院修士課程応用言語学専攻修了。1997年同大学より博士号取得。東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授を経て、現在同大学世界言語社会教育センター特任教授。専門は英語教育学。特に、言語テストおよび言語能力評価枠組み研究。基盤研究(A)「CEFR-Jに基づくCAN-DO タスク中心の教授と評価に関する総合的研究」（代表者）、学習指導要領実施状況調査問題作成委員会委員、結果分析委員会委員（外国語）、New Crown English Series New Edition（三省堂）（著者）

仲光 直子（なかみつ なおこ）青梅市立河辺小学校非常勤講師

公立小学校で英語を教えて19年目になります。文字を扱わない英語活動の時代から、外国語が必修となった現在までの大きな変化を現場で経験してきました。そんな中、語研との出会いを通して、子どもたちの学び方は変わらないと感じています。語研セミナーや第10研究グループでの学びを生かし、子どもが思わず身を乗り出すような授業を目指して、日々授業改善に取り組むべく奮闘しています。子どもの学びに寄り添う指導法を、皆さんと一緒に考えていきたいです。

福島 玲枝（ふくしま あきえ）畿央大学准教授

東京・大阪の国公私立中学・高校での英語指導を担当したのち、現職。高等学校検定教科書の編集委員として、生徒の対話を促すタスクデザインの開発に携わってきました。教室での実践を通して、生徒同士のやり取りが自然に続く授業を大切にしてきました。専門は初級学習者のペアワークの質的分析で、応用会話分析の視点からやり取りの特徴を捉え、その知見を授業設計や評価の工夫に生かしています。

町田 協子（まちだ きょうこ）東洋英和女学院小学部

小学校で1年生から6年生までの英語授業を担当しております。教員としてのスタートを切った際に、語研との出会いに恵まれ、小学校英語研究グループに参加し、一から小学校英語の基本を学ばせていただきました。日々、目の前の子どもたちと向き合いながら、試行錯誤を繰り返している中で、研究グループの先生方から多大な刺激を受け、学び続けることの大切さを実感しています。小学校の時期は、長期的な英語学習の基盤を築く大切な時期ですので、その中で何を大切にすべきかを皆様と共に考えていければと思います。

松原 木乃実（まつばら このみ）聖マリア小学校

小学校で英語を教えるようになって間もなく、語研で研究されている先輩方の英語教育に関する考え方やその授業実践に触れて、「目からうろこ」でした。以来、子どもたちが英語の何をどのように学ぶのか、どのような指導で子どもたちは力をつけていくのか、仲間の先生方と研究したことを自分の授業で実践し確認したり、教員を目指す学生さんたちに伝えたりする毎日です。参加者の皆様とも、語研での研究や現場での経験を共有し、一緒に考え合うことができたなら幸いです。

松下 信之（まつした のぶゆき）大阪府教育庁教育振興室高等学校課参事

府立高校2校で教諭として勤めていました。「英語に対する苦手意識の払しょく」や、「大学入試への対応とコミュニケーション活動の両立」など、各校が抱える課題はさまざまでしたが、どちらの学校においても、「教科書の題材を生かすこと」や「個性・創造性を引き出すこと」、「評価の工夫により生徒の学習意欲を高めること」を心がけて授業を行っていました。現在は行政の立場から、高校教育の充実に向けた取組みを進めています。より良い授業づくりについて、多くの先生方と意見交換しながら、ともに考えていければと思っています。

望月 正道（もちづき まさみち）麗澤大学

高校で7年間勤務したあと、2年間イギリス留学。帰国後、大学に籍をおき現在に至ります。研究テーマは英語語彙指導から、英語教員養成、指導の4技能への効果など変化してきました。主な共著書は、高等学校検定教科書「Heartening English Communication I/II/III」（桐原書店）、「英語語彙の指導マニュアル」（大修館書店）、「英語で教える英語の授業: その進め方・考え方」（大修館書店）、「大学英語教育学会基本語 新 JACET8000」（桐原書店）など。趣味は、読書（ミステリー、江戸庶民物）、散歩（旧五街道の制覇を目指しましたが、孫が生まれて挫折。現在は徒歩圏内を増やしています）、料理。

矢田 理世（やだ まさよ）筑波大学附属高等学校教諭

大学卒業後、私立の中高で元気な男子集団相手に奮闘する日々から教員生活が始まりました。働きながら大学院へ通い MA TESOL を取得。現在は、生徒たちの個性を活かしながら授業での「やり取り」を活性化すること、「論理・表現」の授業で論理性と表現力の両方を養える授業づくりについて、研鑽を積んでいます。「論理・表現」など検定教科書の執筆を20年間担当しています。大学の教職課程の授業も5年間担当しました。2019年度パーマー賞受賞。

山崎 勝（やまざき まさる）埼玉県立和光国際高等学校教諭

語研の研究者としてオーラル・メソッドを学んで30年が経ちました。語研でオーラル・ワークについて学び、英語で授業を運営する方法を知りました。語研でオーラル・ワークの実技指導を受けたことが、英語の教員としての財産になりました。埼玉県の公立高校で勤務して3校目になります。最近では、オーラル・メソッドを基礎に、段階的な指導による無理のないアクティブ・ラーニング（CLIL・協調学習）の実践をしており、「教科横断」的な教材開発に関心があります。

山本 智恵子（やまもと ちえこ）白百合学園中学高等学校教諭

中高一貫校という6年間を見通した英語教育が叶う現場で、よりよい授業づくり、テストづくりを目指し試行錯誤すること30年余りとなります。苦しくも楽しい定期テストづくりの仕事と奮闘を重ねる中、「授業はテストをもって完成する」という思いを強くしています。授業同様、生徒たちにテストによっても学びを深めてほしいと願いながら問題づくりに取り組む時間は、苦しくとも至福の時間でもあります。語研での学びを通じて、授業づくり、問題づくりのための多くの示唆を与えられてきたと思っています。

吉澤 孝幸（よしざわ たかゆき）秋田大学

公立中学校で30余年勤務し秋田南高等学校中等部を最後に教壇を降りました。中学教員時代は、授業だけでなく英検助成研究、科研費奨励研究採択などを通して自分の授業実践の省察を行うようにしてきました。中学校教員を続けながら博士号を取得し転職しました。授業づくりだけでなく、省察のヒントも講座でお話し、教員の職能成長に役立つようにしたいと思います。2018年度パーマー賞受賞。

若有 保彦（わかあり やすひこ）秋田大学准教授

宮城県出身。大学時代に語研の元理事長の若林俊輔先生に出会い、英語教師を志す。宮城県の公立高校教諭、東京都の私立中学、高専等の非常勤講師、英国大学院留学等を経て、2007年から秋田大学勤務。学部及び大学院で英語教員養成に関わる授業を担当している他、秋田市教育委員会の教科指導員、秋田県教育委員会の授業改善に関する事業等、教員研修にも携わっている。語研では評議員、若林俊輔奨励賞委員、若林俊輔先生著作集編集室長を務めている。

渡辺 麻美子（わたなべ まみこ）明星学園小学校

小学校で子どもたちに英語を教えるようになって気がついたら30年以上の年月が…未だに試行錯誤の日々です。子どもたちがことばを獲得していく姿を通して教えてくれることにいつも感動しています。語研の先生方から学ばせていただいたこと、第10グループで研究し学んだことを日々の授業にどうしたら活かせるか、子どもたちに還元できるかを考えながら実践しています。ワークショップでも参加者の皆様とご一緒に考えられることを楽しみにしています。

筑波大学附属中学校英語科

本校の英語科は、前身である高等師範学校附属尋常中等科の頃から100年以上にわたって英語によるコミュニケーションを大切にしていた授業を実践し続けてきています。Harold E. Palmer 博士が自身の提唱したThe Oral Methodを実践した拠点校でもあり、その後もその伝統を引き継ぎつつ、時代に応じた実践を重ねながら発展を続けてきました。そうした取り組みが評価され、2024年度にはパーマー賞（学校賞）を受賞しました。現在は植野伸子、中島真紀子、高杉達也、栖原昂の4名が専任教員として勤務しています。